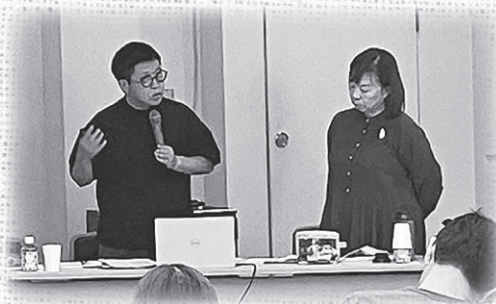




「性の多様性から『じぶん』について考える。 ～誰もが排除されない社会をめざして 子どもたちとの出会いからみえてきたこと～」

にじいろ i-Ru (アイル)
たなか いっぽ 田中 一歩 さん こんどう たかこ 近藤 孝子 さん

講座1としてにじいろi-Ru (アイル) の田中一歩さん、近藤孝子さんを講師に「性の多様性から『じぶん』について考える。～誰もが排除されない社会をめざして 子どもたちとの出会いからみえてきたこと～」と題してご講演いただきました。にじいろi-Ru (アイル) は性の多様性について、子ども向けの講座を2016年度から8年間で約1,170講座ほど行ってきました。そこで出会った子どもたちから見えてきた「性に対して持たされている偏見」。そして自分の偏見と向き合っている子どもたちの様子。性の多様性から「あたりまえってなんだろう?」「じぶんはどうだろう?」と考える子どもたちの具体的な話から、わたしたちおとなも「じぶんと性」「じぶんの性」について深く考える機会となるお話をさせていただきました。



○にじいろi-Ru (アイル) の講座をきいた担当者の感想

にじいろi-Ru (アイル) は、セクシュアリティはすべての人にあるもので、一人ひとり違うものであると考えています。田中さん、近藤さんのお話をきいて、わたしたちの多くは生まれてきた身体の形、外性器の形で性別を決められていることに違和感なく過ごしている（マジョリティである）ことに気がつきました。マジョリティ側の「あたりまえ」「普通」とされる「割り当てられた性」を押しつけることで、生きにくさを感じる子どもたちがたくさんいることをにじいろi-Ru (アイル) がかわっている中の「7人の友だち」を通して学ぶことができました。そして、性のあり方についておとなが深く知る必要があると感じました。

子ども向け講座の中で同性を好きになる人に対して「キッショ」という声があったことを紹介していただきました。マジョリティ側の「あたりまえ」にあてはまらないものを「キッショ」と排除してしまう。そのような意識が子どもたちの生活の中ですりこまれていきます。またマジョリティ側の「あたりまえ」にあてはまる子や先生の言ったルールを従順に守る子を「ちゃんとしている子」と表現する子どもがいたことも紹介していただきました。ここで考えないといけないのは「あたりまえ」「ちゃんとしている」「ちゃんとしていない」を決めているのは「先生、お父さん、お母さん」といったわたしたち「おとな」であるということです。保育の現場や学校においても先生たちがかける言葉がけ、授業の内容、行事の内容のなかにも無意識のうちに性にかかわるすり込まれた情報がたくさんあります。

わたしたち「おとな」のあり方が、様々な生きにくさを抱えさせられた子どもたちの声を押しこらしていること、その場にいるのにいないものにしてきたことに気がつく必要があります。そして、すべての子どもたちの「こうしたい」「こうなりたい」が大切にされ、「じぶん、まる」といえる環境をつくるために、まずはわたしたち「おとな」が性のあり方について深く学び、情報を更新し、じぶんの生き方や子どもとのかかわりを見つめ直し、点検する必要があるのではないかと考えることができました。

・参加者の声から

- 保育の現場で子どもと向き合うものとして、性のあり方を深く知ることで子どもにかける言葉がけが変わっていくと思います。どんな理由があっても排除されない保育をしていくこと、また自分の保育を見直していくことが大切であることを学びました。
- 今は性の多様性が世の中に広がってきているなかで、私もSNSなどでたくさんLGBTQ+などの言葉やその方たちの発信を見ています。一歩さんと近ちゃんの話聞いて改めているいろいろな人がいて多数派が「あたりまえ」とされている世の中のおかしさについて感じました。